

第4回 札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会を開催

札幌開発建設部で現在実施中の夕張スーパーパロダム建設事業及び幾春別川総合開発事業のダム事業について、一層の事業費・工程監理の充実を図るため、「コスト縮減策やその実施状況」、「事業の進め方等」について学識経験者等のご意見を頂く場として「札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会」を開催いたしました。

記

- 開催日時 平成23年8月25日（木）15:00～16:50
- 開催場所 札幌開発建設部内会議室
- 議 題

1. 夕張スーパーパロダム建設事業

- (1) 事業の実施状況
- (2) 平成24年度 事業実施方針
- (3) コスト縮減の取り組み

2. 幾春別川総合開発事業

- (1) 事業の実施状況
- (2) 平成24年度 事業実施方針
- (3) ダム検証について



◆「札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会」委員名簿◆

◎委員長（敬称略、五十音順）

名 前	役 職 等
◎泉 典洋 いずみ のりひろ	北海道大学大学院工学研究科 教授
許士 裕恭 きよし ひろやす	独立行政法人土木研究所寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ グループ長
向田 直範 むかいだ なおのり	北海学園大学法学部政治学科 教授
山下 弘市 やました ひろいち	元北海道土木技術会 コンクリート研究委員会委員

◆議事要旨◆

○各委員からの主な意見は以下のとおり。

(1) 夕張シューパロダム建設事業

(質問) 雨量観測所を4箇所としているが、流域面積に対して観測箇所数が少ないのでは。また、ダム上流側の水位観測所は3箇所としているが、洪水予測監視のために3箇所が必要か。

(回答) 大夕張ダムでの観測所数を踏まえ、既施設の利用を含めて計画しているが精査したい。

(質問) 下流の警報局の設置箇所数が多いのでは。

(回答) 音達調査等を実施して、既存施設の利用を含めて配置計画を検討している。

(質問) ダムの水位計が非常用洪水吐の近くにあるので、洪水時(サーチャージより上)は水位観測の正確性に欠けるのではないか。

(回答) 最低水位からサーチャージまでの水位を測る必要があるため現位置で計画している。サーチャージ以上の水位の観測については、今後検討したい。

(質問) 堤体に設ける三角ぜきが3箇所がある必要性は。

(回答) 漏水の発生箇所を把握するためである。

(意見) 揚圧力計や漏水量計の観測頻度は、試験湛水時は多いが経年的に少なくなり、自動観測を継続して実施すると経費もかかるので、観測方法等の精査が必要では。また、目視で観測して水の濁りを把握することが重要である。

(回答) 観測方法等については精査したい。

(2) 幾春別川総合開発事業

(質問) コスト縮減の管理用通路について既設導水管路を閉塞せずに活用するという事は、新たな通廊を作らなくて良くなったということか。

(回答) そうである。

(質問) 検討の場におけるダム事業の点検で、堆砂計画についてはどうだったのか。

(回答) 先日の点検では、現計画が妥当である事を確認した。

(質問) 検討の場における委員の意見はどういったものであったか。

(回答) 委員である流域の自治体の首長からは、早期に検証に係る検討を進めて欲しい旨の意見をいただいている。

(質問) 環境アセス以降に何か変わったことはあるか。

(回答) 特に変わったことはない。現在も猛禽類の営巣場所などの環境調査を継続している。

(以上)